

障害者支援施設さやか 地域連携推進会議 議事録

日時:令和 7 年 12 月 6 日(土) 9:00~12:30

場所: 社会福祉法人清心会 法人本部棟 多目的室

参加者:理事長、副理事長、常務理事、障害者支援施設さやか施設長、
たかしの事業所部長、ふらわあ事業所部長、とも事業所施設長、
さやかワークセンター部長、アーティストテラス 634 事業所施設長
利用者 H 様、利用者家族 N 様、地域の関係者 M 様
福祉に知見のある方 I 様、経営に知見のある方 K 様

1 開会 9:00

2 趣旨説明

理事長: この会議は、清心会の基盤となるさやか学園が、40 年前の基準であった 4 人 1 部屋、1 人あたり 2~3 畳程度の生活環境の改善を目指し、地域移行を進める中で、国がようやく生活の質に力を入れ始めたことをきっかけに義務化されたものです。本来、意識の高い法人はこの会議がなくても当たり前の福祉を実現していますが、昨今の規制や新規参入法人による質の担保が問われる状況に対応するため、外部の目を入れて質を確保することがこの地域連携推進会議の目的とされています。出席者の皆様には、率直な疑問やご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

副理事長: この会議は今年度から義務化されたものであり、施設がどのような支援を行っているかを外部に理解してもらうことを目的としています。本来は入所施設だけを見学すれば良い制度ではありますが、「障害者支援施設さやか」という包括的な立付けのため、入所施設だけでなく、通所事業所も含めた全ての事業所を見学していただくことになりました。私たち自身、監査でも全事業所を回る機会がほとんどないため、貴重な機会だと感じており、外部からの気づきが改善に繋がると期待しています。

3 出席者自己紹介

4 各施設見学

さやか事業所 → たかしの事業所 → ふらわあ事業所 → とも事業所
→ さやかワークセンター → アーティストテラス 634

見学終了後 会議再開

5 ご意見・ご感想

M 様：全事業所の見学を通して感謝しかありません。特に親の立場から見ると、自分の子のことで精一杯な状況にもかかわらず、職員の皆様のご苦勞が見て取れます。全ての利用者さんが平等に見守られている状況に感謝しており、親として過度な要求を抑えるべきだと考えます。法人がこれだけの大きな事業を経営されていることの困難さや、物価高騰などの厳しい経済状況を理解しており、職員の皆様に感謝します。

K 様：前回に引き続き様々な施設を見学させていただき、特にワークセンターの環境は大変素晴らしく、快適であると感じました。職員の皆様のご苦勞を推察しつつ、より働きやすい環境づくりの検討を進めるよう希望します。

I 様：3 日間見学をさせていただきありがとうございました。さすが清心会と感じたのは、グループホームでの普段の生活と、日中活動(作業や仕事)を行う場所が異なることで、生活環境が変わり心のスイッチが切り替わるシステムが素晴らしいと思います。他の施設では、寝食の場と同じような雰囲気の中で日中活動を行うケースもある中で、この環境整備は職員の努力の賜物であり、このシステムが秩父地域の障害者にとって大きな強みでありメリットだと強調しました。この体制が継続されることを強く望みます。

N 様：このような委員に就任したのは初めてで不安もありましたが、今日の感想は、各施設と職員の方々にただただ感謝を申し上げるのみです。自分の子どもがワークセンターでお世話になっており、幼少期に自閉症(自閉症スペクトラム)と診断され、治らないと言われた経験があります。職員の方々が毎日毎日、根気よく利用者に向き合ってくださっていることに、さやかを利用して丸 11 年目に入り、感謝しかありません。今後も施設の継続を願い、協力していきたいと思います。

H 様：はじめてこのような見学をして 634 とか見れていいなと思いました。634 の中を見れてきれいでいいなと思いました。職員の対応もよかった。フーズでの仕事は洗い物をしたり、玉ねぎの皮をむいたり、就労の中ではみんなをまとめるようにしています。

ふらわあ部長: 今日は見学していただいてありがとうございました。ご意見いただいてありがたいことばを頂戴して励みにして日々の支援に生かしていきたいと思います。また何かありましたらご連絡いただければと思います。

とも施設長: 本日はありがとうございました。時間のない中でしっかりと説明もできなかったのですが、いつでも見学においでいただいて利用者さんの笑顔とか活動の様子を見ていただきたいと思います。

ワークセンター部長: 土曜日なので普段の活動とは少し違ったのですが、平日の時間のある時に見ていただければ利用者さんが活躍しているところを見ていただけますので、ご都合がつくときにおいでいただきたいです。職員だけでなく利用者さん一人ひとりの力がないと仕事が回らない事業所なのでまた見学においでください。

たかしの部長: 本日はありがとうございました。朝早い時間帯だったので活動の内容をじかに見ていただけなかったのが残念ですが、時間のある時にお立ちよりください。発達障害に特化した事業所なので若い職員中心にとっても頑張っています。また次回よろしくお願い致します。

さやか部長: さやか事業所としては入所施設でなかなかいろいろな方に見ていただく機会もなかったと思います。皆さんが住む場所と活動の場所を分けて生活できるようにしていきたいと思っていますし、さやかが設立して43年。この責務を果たしていきたいと思う。皆さんにご意見をいただいて良い入所施設として役割を果たしていく。634は新しい事業所として横瀬町を中心に地域の方と一緒にイベントを行いお客様が来ることで活性化している。ますます皆さんに文化芸術活動を通して、障がいへの理解を深めていく、私たちも積極的に地域へ出ていく場所としている。お気軽に足を運んでいただきたい。

副理事長: 朝からの日程で活動内容が平日と異なっていたことで、活動の様子をうまく把握することが難しかったと感じました。利用者の高齢化と、それに伴う施設の老朽化が進んでいることを痛感し、特にさやかの入所施設が非常に古くなっていると感じました。グループホームを見学した後では、入所施設との違いが明確であり、入所施設では「ずっと暮らし続けるのは難しい」と感じたため、当たり前の生活ができる環境とは何かを考えてほしいと思う。来年度は、半日ずつの時間を四半期ごとに設けるなど、日程を分散させることや、特定の分野をメインにした見学、また、現場の施設長たちに調整役を任せることを提案しました。組織全体として、他の施設長たちも互いの事業所について意見交換できる体制の必要性も指摘しました。

理事長: 今回の推進会議で、外部の皆様に再度深く見学していただくことで、新たな気づきがあったことに反省の念を覚えました。私たちは当たり前に行っていることが、外部の目からは非日常である場合があるため、外部の声をいただくことは大変ありがたい。法人は、地域の中で何ができるかを追求し、地域の方に認められるよう、職員と利用者ともに適切な挨拶や対応を徹底してきたことを説明しました。今後は、環境問題など多くの課題がある中で、この法人が地域で生き残るために、引き続き皆様の厳しくも温かいご意見をいただきたいと思います。

6 今後の地域連携推進会議について

常務理事: 会議の終了にあたり、議事内容は発言者を特定できないよう加工した上で、ホームページ等で公表します。次年度以降は平日午前中に障害者支援施設の見学するなど、日程調整の検討を進めていきたいと思います。今後ご協力をお願いします。

7 閉会 12:30